

一九七一年六月一七日第三種郵便物認可
二〇二〇年九月三〇日発行 毎月六回五・〇の日発行 SSK通巻第五四七九号

SSK 野の花

野の百合は

如何いかにして育つかを思へ

勞せず紡がざるなり

然されど我なんぢらに告ぐ

榮華を極めたるソロモンだに

その服装よそほひこの花の一つにも

及しかざりき

(マタイ伝六章二十八・二十九節)



秋を散策しよう NO 330



野の花 第330号 目次

詩内藤俊宏3
ひろば		
生きづらさにある生きる望み栗原直美4
メッセージ		
わたしを愛しますか内藤俊宏7
リレーエッセイ 受けるよりも与える幸い		
わもらってばかり青木亮一11
短歌吉澤孝夫14
視点・死角15
主筆のしんぺん18

表紙撮影：鹿毛喜悅



コロナの世界

秋の雲がふかつぷかつ浮いている

雲さん

ちよつとお聞きしたいんですが

うん！

コロナはどうなっちゃうんでしょうかね

地上ではワクチン争奪戦が始まっているようじゃないか

自分ファーストがなくなるならない限り

夕べ雲や来る 空を見れば

天がおりてくる

すべてを支配なさる方よ

ここに望みがある

夕日がまばゆい

新しい朝が来る！



生きづらさにある生きる望み

栗原直美

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、外出を自粛することなど今まで自由に行動できていたことが制限を受ける事態となっています。これはどなたにとっても息苦しく、生き辛い状況ではないでしょうか。

私は、「うつ」という精神障がいを持ちながら生活しています。日々の生活に「生き辛さ」を常に覚えながら過ごしている状況です。「うつ」は、脳内のセロトニンの分泌、取り込みが正常に行われないうち脳機能障害が見られることがわかってきました。機能障害がなぜ起きるのかについては諸説あり、完全に解明はされてはいません。私にとつての生き辛さとは何か？季節変化、緊張度が高い状態に長

く置かれること、自分を取り巻く環境の変化、聴覚、視覚など自分が感じ取る情報をすべて処理しようとして体全体が反応し、全体力を使い果たしてしまい、疲れ果て動けなくなってしまう、考えることもできなくなってしまう。このような状況を繰り返しながらの生活です。

その中で感情が浮き沈みし、計画していた行動を十分に果たせなくなり、自己嫌悪に陥ったり、自己評価が極度に低くなったりという「生きづらさ」があります。

定期通院とカウンセリング、服薬治療を受けていますが、完治に至ってはいません。カウンセリングを通して、「うつ」になったきっかけは第一子を出産した時の難産であることがわかりました。それ以前に私の物の考え方、物事の捉え方の歪みがあることもわかってきました。この認知の歪みが生まれつきの

ものなのか、生まれてから何かをきっかけに起きたのかについて私の行動を振り返り、物事をどのように認知しているかを少しずつ探り認知の歪みを見つけて、そこを修正することを続けています。

その中で幼少期にあった様々な出来事、親とのかかわりなど多くの事柄を思い出し、ある時期の記憶の欠落があり、記憶を拾い出せない状態となり、それ以上記憶から障がいの原因を探ることはできなくなりました。そこで出てきた思いは、なぜ私は「うつ」になったの？なぜこの「生きづらさ」の中を生き続けなければならぬのかという問いです。答えは聖書です。「先生。この人が盲目で生まれたのは、だれが罪を犯したからですか。この人ですか。両親ですか。」イエスは答えられた「この人が罪を犯したのでもなく、両親でもありません。この人に神のわざが現れる

ためです」(ヨハネの福音書九章二、三節) この御言葉は完璧な答えです。答えが与えられていることは感謝です。「うつ」という障がいを与えたのは神様です。そして神様のわざが現れるために必要なものであることも理解できました。

それでも日々の生活の「生きづらさ」は続いています。これからも「うつ」と付き合いつて生きていくこと、これは私が負うべき十字架であり、それを通して神様から祝福を得る基となるものと信じています。私は障がいを与えられて地上に生を受けました。

常に「生きづらさ」を抱えながら生きるという環境に置かれています。あえて神様がこの環境に私を置かれたことは、より神様に感謝し、信頼して神様とともに生きる喜び、多くの祝福を頂ける特権を与えてくださったのだと信じます。

人間の目からみれば障がいは「大変だ」「ないほうが良い」「不自由だ」と見えるものでしょう。人間は決して失敗作ではなく、素晴らしい作品です。しかし罪は、「障がいは悪いものである」と単純に認識させようと働いてきます。その考えから抜け出すため、障がいと共に、地上での生涯をよりよく全うするために、創造主なる神様から障がいの取り扱い方を十分に学ぶ必要があります。聖書という取扱説明書に親しみ、ご聖霊様のお導きを豊かに頂くことが大切であり、これこそが恵み豊かな人生の秘訣ではないでしょうか。

(豊橋ひかり聖書バプテスト教会 牧師夫人)

メッセージ わたしを愛しますか

内藤俊宏

ヨハネの福音書二二章一七節

イエスは三度目もペテロに、「ヨハネの子シモン。あなたはわたしを愛していますか」と言われた。ペテロは、イエスが三度目も「あなたはわたしを愛していますか」と言われたので、心を痛めてイエスに言った。「主よ、あなたはすべてをご存じです。あなたは、私があなただを愛していることを知っておられます。」イエスは彼に言われた。「わたしの羊を飼いなさい。」

愛の訓練

イエスとペテロの特別レッスンが始まります。ペテロの否認を回復するためです。ペテロだけが特別扱いされたわけではありません。他の弟子達もイエスから逃げましたので、イエスのお取り扱いを見習わなければなりません。その一点は『わたしを愛しますか』、しかも『この人達以上に』です。

教会以外に「愛の訓練」を受ける所があるでしょうか。訓練という言葉は多少強制という意味があります。なぜなら私たち人間は人を愛することを知らないからです。

お大切に

鈴木範久の著作に「聖書翻訳の歴史」という書物がありますが、もともと日本語には聖書の告げる「神」とか「愛」にふさわしい言葉がなかったそうです。鈴木氏は、聖書翻訳の初期訳は「愛」を「お大切に」と訳しました。そして「ここに隣人を大切にする精神」があると言っています。私たちは日常の挨拶の中で「お大事に」とか「お大切に」と言うではありませんか。日本人でありながら、相手を大切にすることを欠けてしまっているように思われるのは私だけでしょうか。主イエス・キリストは、このわたしを「大切な存在」として思ってお下さり、十字架に命をささげられました。ヨハネはこのことを『人がその友のためにいのちを捨てるという、これよりも大きな愛はだれも持っていない』(ヨハネ福音書一五・一二)という表現で表しました。だれも持っていない。この『愛』を。

ずっと以前ホームに転落した女性を助けるために、近づいて来る電車にもかかわらず、線路に飛び込んだ青年がいたことを思い出します。三浦綾子にも「塩狩峠」という作品があります。峠にさしかかった列車が止まらなくなり、一人の青年が下敷きになったという実話に基づく小説でした。

あなたがご存じです

イエスの問いかけに、ペテロは「愛します」と胸を張れませんでした。『あなたがご存じです』と言うしかなかった。私たちの「愛します」は「愛しているつもり」にすぎない。そ

の確実性は相手にあるのです。「愛します」と言っても、相手の心に届かない場合があります。

イエスが弟子たちの足を洗われたとき、十字架にかかる時が近づいたので『その愛を残ることなく(最後まで示された)』(ヨハネ一三・一)。「極み」まで私たちはこの愛を受けたのです。グレゴリオ聖歌の映像を見ていたとき、「我らはキリストの愛によって集められ」という字幕が流れていました。何かの利益のためではなく、キリストの愛によって集められた団体、これこそ教会の真の姿だと思わせられました。

心が痛むよう

ペテロは主イエスから『私を愛するか』を三度も繰り返されて『心を痛めた』が、主を知らないとして三度否認したことは、それ以上に主は『心を痛めた』に違いありません。否認のたびにむちで打たれるような痛みを覚えたにちがいません。

私たちも日常レベルで似たような経験をしています。自分が受けた心の傷に対しては過敏なのに、相手に与えた傷にはきわめてにぶいのではないのでしょうか。時として、相手をとことん痛めつけるよりも、自分を痛めつけることは大切でありましょう。その瞬間、私たちの痛みを担い、私たちの罪のために徹底的に痛めつけられた十字架の主イエス・キリストを見出すでしょう(イザヤ五三・四、七)。

どのような死に方をしたら

ペテロは、どのような死に方をして、神の栄光を現わすかを教えられました。不思議なことに、生き方ではなく、死に方によって私たちの人生は決まるのです。『あなたは若かった時には、自分で帯を締めて、自分の歩きたい所を歩きました。しかし年を取ると、あなたは自分の手を伸ばし、ほかの人があなたに帯をさせて、あなたの行きたくない所に連れて行かれます』、鋭い対照ではありませんか。

まるで私たちが直面している「老齡者問題」ではありませんか。しかしペテロの死に方が示されたのです。手を十字架にくくりつけられ、行きたくない処刑場に連れて行かれるのです。もちろん同じ苦しみではありませんが、『行きたくないところに連れて行かれる』点では、私たちは皆それに似た悲哀をなめているのではありませんか。老化に伴う様々な課題を担っている者にとっては同種類かも知れません。ただし老化のつらさをキリストによって受け入れているかどうかにかかっているのです。

誰しもこの悲哀を避けることはできません。いや、私たちはこの嘆きで終わってはなりません。死に方と、もっと言えばどのような老い方をすれば、『神の栄光を現わす』かを聖書から学んでいきたいものです。『わたしを愛しますか』は、私たちの生き方、老い方、死に方に深くつながっていると申しても過言ではありません。

リレーエッセイ



受けるよりも与える幸い
もらってばかり

青木亮一

「与えるは受けるよりも幸い」を地で行っ

ている人が多くいる。しかし、私はどうもその逆で、「与える幸い」の実行者から「受ける幸い」を享受していることが多い。

この欄に何を思い、何を書こうかと思案している、主イエスが十二弟子たちを主イエスの福音を宣べ伝えさせるために遣わされた時、語られた一つのみことばを思い起こした。「あなたがたはただで受けたのだから、ただで与えなさい。」（マタイ一〇章八節）

エピソード①

「福音をわたしに与えた若い伝道者」

私たちは人から親切にされ、あるいは様々なものをいただくとき、できるだけ感謝を表すだろう。しかし、自分の歩んできた道を振り返ってみると、人からの感謝を求めることは多いが、感謝することを忘れることが多々ある。

私を明確に主イエス・キリストに導いてくださった人は神学校入学を準備されていた大学生だった。主日礼拝後、この人は数時間かけてペテロの回心から始め、主イエス・キリストの十字架と復活を私に語り続けられた。私はあたかも主イエスの十字架の前で主イエスご自身の招きのことばを聞くような思いを与えられ、心から主イエス・キリストを信じた。救われた喜びを家に戻って父親に話した。すると、「お前は飽きっぽいから、（キリスト信仰を）やめろ」と言われて、怖気づいた。幸いにも一週間経つてもこの喜びは続き、教

会の高校生仲間には告げたとと思う。しかし、肝心なことを失念したままだった。私を主イエスに導いてくださった若き伝道者に感謝を表していないまま、六〇年の時が過ぎた。ただ、ご本人以外には、この喜びは機会あるごとに語ってきた。

主イエスが弟子たちを福音に伴うしるしを行く力を帯びさせて村々、町々に遣わされた。弟子たちが福音に伴う力あるしるしを行い、病気を癒し、悪霊に取りつかれた人を解放し、人々を驚嘆させ、神の御名を崇めさせたとき、人々からのもてなしや報酬を期待していたであろうか。しかし、主イエスは「ただで受けたのだから、ただで与えなさい。」と語られ、強く戒めている。

エピソード② 「コートニ着」

神学校の四年間、幕張教会の吉野千代治先

生、教会の兄弟方の支えによって過ごすことが出来た。卒業後、札幌教会の招へいを受け、ただちに赴任した。その時、まったく同じコートを二着頂いた。一着は叔母から、もう一着は幕張教会の婦人会から。数年間、この二着を初冬や春先に代わり代わりに着ることが出来た。

はじめ、神学校卒業後は幕張教会に仕えることを願っていた。しかし、神学校四年生の夏に行われた北海道での伝道実習以来、北海道で主の御用をしなくてはならないと思いが強く与えられた。この重荷はいかんともし難く、神学校卒業後、すぐに札幌に来てしまった。

幕張教会は神学生時代の四年間、物心両面で私を支えてくださった。そのお世話に応えることなく幕張教会を離れたことは、またもや「受けるよりは与えるほうが幸い」の逆と

なってしまうた。

エピソード③「ハスカップとブルーベリー」

こうして多くのものを受け、少ないものをお返しする札幌の生活は五〇数年に及んだ。若く体力があつた時期はとうに過ぎてしまった。ますます、受けることが多い。

八年前、三度目の開腹手術を受けた。五月上旬の桜の季節だった。同じ時期、がんの手術を受け、この桜が見納めになるかもしれないと思つていた人から熱心に病院の桜を見ようと声をかけられた。この人は洞爺湖畔の観光ガーデンの経営者で、広いフラワーガーデンと自分の牧場の牛乳を使ったジェラートが自慢で、大勢の観光客が訪れる。

私たち家族はこの人から招待を受け、ブルーベリーを摘ませてもらう。近くに住む孫たちの夏休みの楽しみの一つに加えている。私た

ち夫婦は命に関わる病気をした者同士として互いに生きていることを確かめ合い、家内は家内でこの婦人の活力に元気をもらう。

毎回、一〇キロ以上摘ませてもらう。摘んだブルーベリーの一部は日高に送る。日高には長女の夫の両親と祖母がいて、私たちのことを何かと心遣いしていただいている。七月初めには日高からハスカップという北海道在来のベリーをいただいた。

日高の家のおばあちゃんはハスカップよりもブルーベリーの方が目によいと思つているので、送ると喜ばれる。一方、ハスカップは私の妻の宝物だから、ただくと家内は歓声をあげる。

また、近所の数件のお宅からキュウリやミニトマト、もぎたてのトウモロコシなどの野菜、それだけでなく、薪ストーブ用の薪材など数えきれないほどの色々な物をいただいで

いる。ご近所だけでなく、遠くの知人からも
なんと多くのものをいただいているか。

家内の感想は「いつももらってばかりだね。」
である。家内の名譽のために付け加えると、
子育てが終わってから作り始めたパウンドケー
キをせっせと焼き、北見産のコーンスープを
添えて返礼に使っている。

顧みてみると私たちは父なる神から御子で
ある救い主イエス・キリストをいただき、主
イエス・キリストによる永遠の命をいただき、
日々の生きる喜びと苦しむときの慰めをいた
だき、よき信仰の友を与えられてきた。

「いつももらってばかりだね」は神ご自
身から来ていると、つくづく思う。

(札幌聖書バプテスト教会 前牧師)

短歌

吉澤孝夫

酸素引き友らの守り祈らむと集ひし兄と
ベルの讚美す

主なる神が命の息を吹き込んでくださ
います様に。自分の息で声が出せない。友
の苦しさを共有して、祈られる集いに、
声ではなくベルで賛美される優しさが、
兄弟愛が熱く伝わります。私も出席した
くなる祈りの集会です。(耕人)

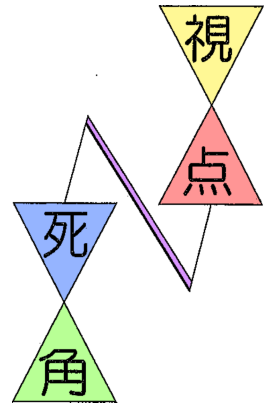
「マスク縫う間は痛み忘れる」と祈りの
作が牧師に届き

新型コロナウイルスの感染とどめよと、
牧師の健康を祈りながら痛みを忘れてマ
スク縫う針が進みます。(耕人)

亡き友のフルートの音（ね）
を絶やさむとオカリナ求め
稽古を始め

オカリナはフルートより
簡単でしょうか。いや簡
単そうで結構難しいので
す。フルートの澄んだ音
色と、オカリナの温か味
のある音色が、天と地
合わされて、主を賛美出
来たらずばらしいですね。

（耕人）



聖書はいかがですか

『私は生きていることを憎
んだ』（伝道者の書二・一）
二六）

聖書にこういう言葉がある
とは驚きではないか。事業を
拡張し、邸宅を建て、多くの
女を囲った。何一つ充実感
なかった。何か文句あるか。
同じ結末。死である。多くの

者はこれで満足する。しかし
伝道者はいう。『なんと、す
べてがむなしことよ。風を
追うようなものだ。日の下
には何一つ益になるものはない』
（一一）。『実に、神から離れ
て、だれが食べ、だれが楽し
むことができようか』（二五）。
聖書は、飲み食いして人生を
楽しむことを否定していない。
ただし、「神の畏れの中で人
生を楽しむこと、これが人
なすべきことを忘れてはなら
ない」（矢内原忠雄）。
パウロの言葉を思い出す。
『食べるにも、飲むにも、神
の栄光のためにせよ』と。こ
れ以上に言うことがあろうか。

『その一生は、悲しみであ

り、その仕事には悩みがあり、その心は夜も休まらない。これもまた、むなししい』(二三)。伝道者はいいかげんなどろで手を打たない。徹底的に現実を見据えている。

パスカルは面白いことをいう。

『惨めさ

ソロモンとヨブは、人間の惨めさを最もよく知り、最もよく語った人である。前者は、最も幸福な人、後者は最も不幸な人。前者は体験によって快樂のむなしさを知り、後者は苦難の現実を知ったのである』

またこうも言う。

「この世のむなしさが分からない人は、まさにその人自身がむなししいのである。……人間の偉大さは、自分のみじめさを知っている点にある。木は自分のみじめさを知らない」。

人は、快樂か、苦しみによつて、己が惨めさを知ることが、ほんとうの賢さなのかも知れない。

『主を恐れることは知識の初めである』(箴言一・七)

『何事にも時がある』(伝道者の書三・一〜二六)

『何事にも定まった時があ

る』という書き出しで、人生のすべてと言っている。そして時が上げられている。そして驚くことは、誰もが経験する具体的な『時』が並列させられている。前半は建設的で、後半は破壊的である。つまりこれらの繰り返しだが、私たちの歴史だというのだ。つまり壊しては、創り上げ、まるで子どものおもちゃ遊びみたいだ。そしてこのおもちゃ遊びを大の大人が真剣に繰り返し、なんとなんとなん、私たちの歴史だという。アホらしい。アホらしい。アホらしい。性懲りもなく繰り返し返しているのが、これまたアホらしい人間なの

だ。

一一節は、あほらしい『時』

の総まとめと言っている。

『神のなさることは、すべて時にならなくて美しい。神はまた、人の心に永遠への思いを与えられた。しかし、人は、神が行われるみわざを、初めから終わりまで見きわめることはできない』。私たちはときどき『時』の無意味さを感じることもある。そんなとき、一一節が解く鍵になる。あなたが愛する時、その背後に神がいっぱいある。憎む時、その背後から神が悲しそうな表情で見えておられる。『時』の

意味は、『神のなさること』

に心を向ける時、了解できる。

人は永遠ではないが、永遠への思い(思慕)が与えられている。

ただし神のなさるみわざを見極めることはできない。

これが人間の限界である。もし見極めることが出来たら、人は狂うだろう。

永遠なる神を思慕するが、人は神ではない。己の分をわきまえつつ、

永遠なる神を思慕し、信じ受け入れる時、与えられている

『時』の意味が分かってくる。

このド・あほな歴史も、歴史(History)は神の

(His)物語(story)と見る時、事態は一変します。

米国のオバマ大統領の就任式の祈りを導いた牧師は「すべてはあなたの栄光のために存在しています。歴史(History)は、あなたの物語(story)です。……私たちは、キング牧師が、この日を天国で喜んでいるのを知っています」と感動的な祈りをささげた。このド・あほな歴史も、『神のなさること』に心を向ける時、文字通りのHistoryに変貌する。神を崇めよ。

しんぺん



某月某日

書店でカミュの「ペスト」を手に入れた。二〇世紀前半の作家で「疫病に挑む人間、熱病が蔓延する封鎖された街で人はどのように振る舞うのか、医者リュウの眼を通しての詳細な記録」である。わたしが注目したのは、最後の文章だ。「事実、(疫病の収束に)市中から立ち上る喜悦の叫びに耳を傾けながら、リュウはこの喜悦が常に脅か

されていることを思い出していた。彼はこの歓喜する群衆の知らないことを知っており……ペスト菌は決して死ぬことも消滅することもないものであり、いつか、ペストがそのネズミどもを呼び覚まし、どこかの幸福な都市に彼らを死なせに差し向ける日が来るであろうということを」。この予言が的中しているのが、今私たちが直面している事態ではなからうか。一日も早く収束して欲しいのは山々だが、こういう現実にも向き合っていく姿勢も必要ではなからうか。カミュは「人間に不幸と教

訓をもたらすために」とつけ加えている。不幸はともかく、教訓として受けとめることは大切だと思う。パウロは過去の不祥事を「教訓」として捉えよと言いながら、直面している試練は耐えることが出来ないようなものではなく、試練とともにそこから脱出の道も備えていてくださる。『神は真実なお方である』からと言っている(1コリント一〇・一一、一三)ことに注目しておきたい。

八月某日

今月いっぱい、美浜教会を閉じることにした。九月か

らは体力の許す限り、小さな集まりを持つことにした。新しい魂が加えられる野心も少しは秘めて。さすがいつもの顔が見えないと寂しい。どこかの首相の言った如く、苦渋の決断だ。ある先生は「苦渋の決断だったでしょう」とメールを下さった。

だれが愛する信徒と別れることを喜ぶだろうか。巢立ちを考えていた。親鳥はわりにも子どもを追い払う。礼拝する場所は違ったとしても、御国に行くまで忠実な信徒として歩んで頂きたいと祈るのみである。ミレットで教会員はパウロと、涙ながらに別れた

が、美浜教会はそういうことはなく、「驚くべき恵み」を賛美した。これしかない。これ以上、何を望むことが出来るようか。

九月二一〜二二日

姪の子の結婚式、大阪に行つてきました。本人は小さい時に「お兄ちゃんを直すためにお医者さんになるわ」と見事その意志を貫いて医師になり、お相手も看護師の好青年です。何年ぶりかの新幹線、最良のヘルパーさんと三人で。地の友人が時間になればあらわれ、電車での移動を誘導してくれました。文字通り、昼

は雲の柱、夜は火の柱でした。

編集室より

準備中

一、本誌の目的は、誤りのない神のことばである聖書に基づいて証することにある。

一、障がいのある人々および、関わりをもっておられる人々に、イエス・キリストの福音を伝えていく。これは「それゆえ、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい……マタイ二八章一九節」のご命令と信ずる。

一、各地のクリスチャン障がい者のニュースやあかしをのせることによって、お互いの交流奨励の場としたい。

本会は「野の花」の名称を用いて寄付行為及び物品の販売は一切いたしておりません。

一九七一年六月一七日第三種郵便物認可

二〇二〇年九月三〇日発行 毎月六回五・〇の日発行 SSK通巻第五四七九号

バプテスト 障がい者伝道協力会

〒261-0004 千葉市美浜区高洲1-5-11

TEL/FAX 043-246-5029

郵便振替 00170-8-107957

メールアドレス：lilybox@pop11.odn.ne.jp

Facebook：

<https://www.facebook.com/toshihiro.naito.34>

主筆：内藤俊宏

編集：浜田 献

印刷所：(株)東京カラー印刷

〒120-0034東京都足立区千住関屋町5-27

頒価 70円

(教会名)

本誌をお読み下さってキリスト教に関し、あるいは人生の生き方に関してご質問があれば、左記の教会又は事務局までご遠慮なくお申し出下さい。

発行人 障害者定期刊行物協会
東京都世田谷区祖師谷二・一・一七
ヴェルドウラ祖師谷一〇二一